

セッション
“見えない価値を可視化する”

社会価値と評価
～CSRオフィサーの視点～

2016.9.30

ANAホールディングス株式会社
コーポレートブランド・CSR推進部
グローバルCSRヘッド

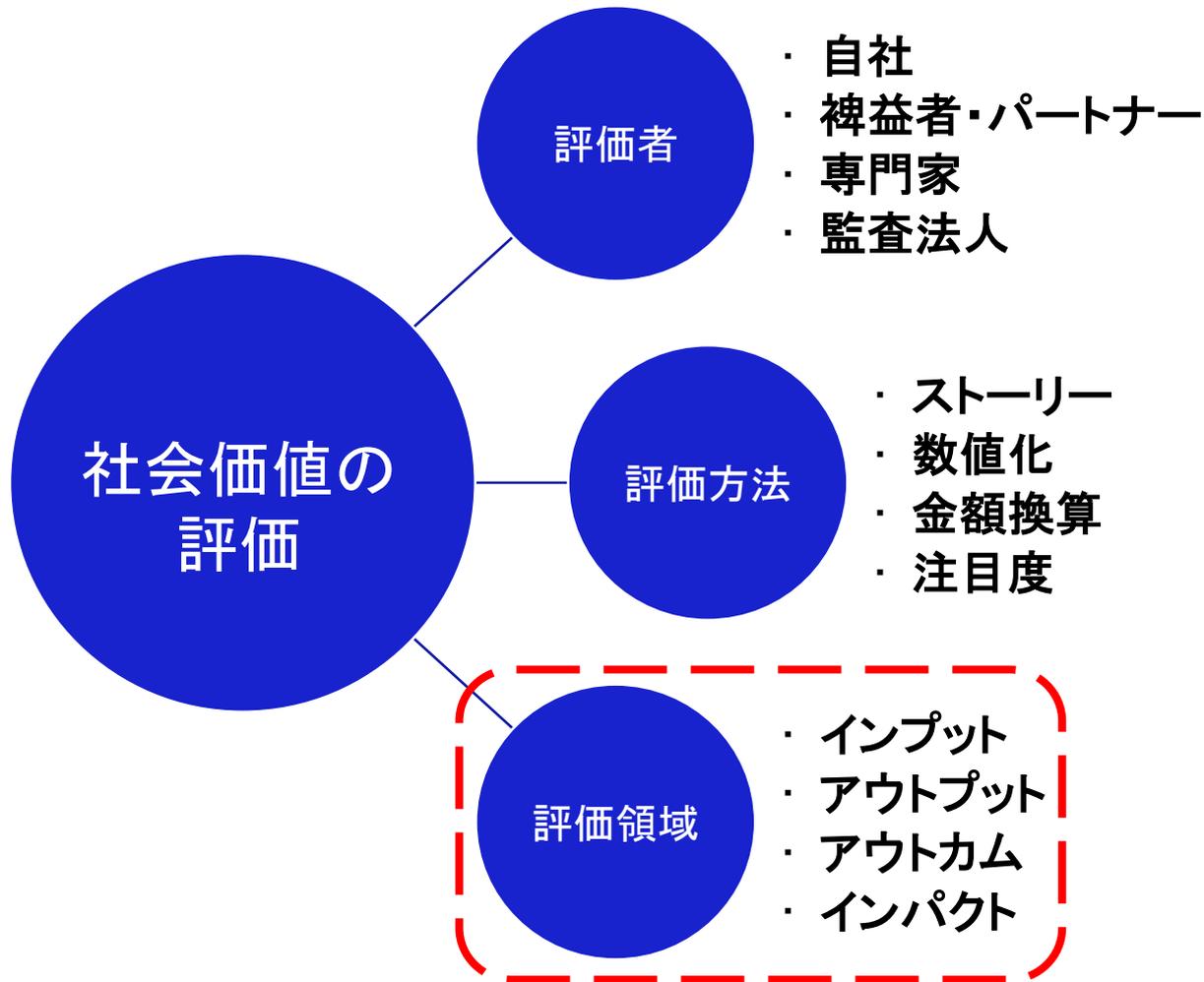
金田晃一

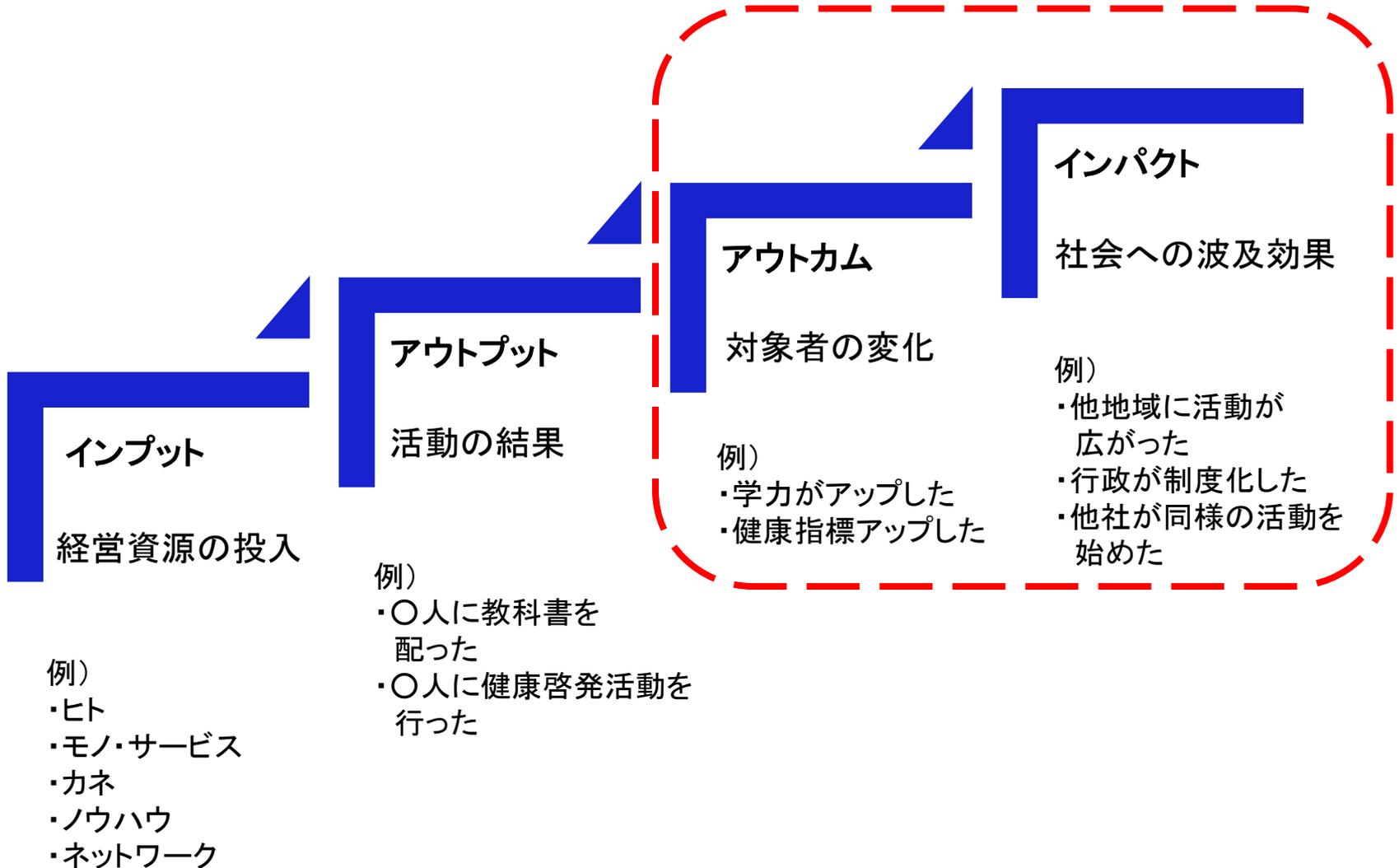
		CSV		
CSR	代表的な3活動	企業価値(例)	社会価値(例)	
		優れた製品・サービスの提供	●収益の増加	●生活の豊かさの向上 ●社会課題の軽減
		事業プロセスの改善 (効率性や倫理性)	●コストの削減 ●生産性の向上 ●価値毀損の回避	●環境負荷の低減 ●社員の健康増進 ●共生社会の進展
		社会への投資	●将来収益の増加	●公益の増大 ●経済の活性化

* CSR活動が、企業と社会の価値を創造し、双方の持続可能性を高める
 (CSR) ➡ (CSV) ➡ (Sustainability)

■ 重要課題とする理由とレビューのポイント

	重要課題とする理由		レビューのポイント
	ANAグループにとって	社会にとって	
環境 → P.60	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来の環境リスクへの対応 ● 環境ブランドの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷低減 ● 航空事業におけるパラダイムシフト 	<ul style="list-style-type: none"> ● CO₂排出量削減の進捗 ● バイオジェット燃料導入の検討状況など
ダイバーシティ & インクルージョン → P.62	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業を通じた多様性の促進 ● 新たな需要獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが暮らしやすい共生社会づくりの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ● ユニバーサルなサービスの開発・展開状況など
地方創生 → P.64	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内線事業の収益維持向上 ● インバウンド需要の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪日旅客の呼び込みを通じた地方経済の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内線事業の売上高推移など





1. Corporate Actions

- 1. 1 本社
- 1. 2 国内グループ会社
- 1. 3 海外グループ会社

2. Collective Actions

- 2. 1 取引先
- 2. 2 異業他社
- 2. 3 同業他社

3. Actions as a Producer

- 3. 1 アドボカシー
- 3. 2 ルールメイキング
- 3. 3 イニシアティブ

(2005~2014年度)

公益信託アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) 特別基金

「大和証券グループ津波復興基金」
インド洋津波被災地復興支援10年プログラム
完了報告書

目次	
報告概要	p.2
「大和証券グループ津波復興基金」の設定	p.4
10年間の功成事業概要	p.6
事業報告	p.8
基金設定書、ACT事務局より	p.28

⑥ 中学校の校内・校外活動を通じた防災意識の向上プログラム

(4年間: 2011-2014年度、インドネシア)

実施団体: シャー・クアラ大学津波減災研究センター
(Tsunami and Disaster Mitigation Research Center
(TDMRC) Syiah Kuala University)

受益者数: 計3,123人 (世帯)

**アチェの17校3,100人以上が
減災活動に取り組む**

〈受益者からのメッセージ〉

ヌルサアダーさん (45歳)

(アチェ・ブサール県プカン・バダ第1中学校教師)

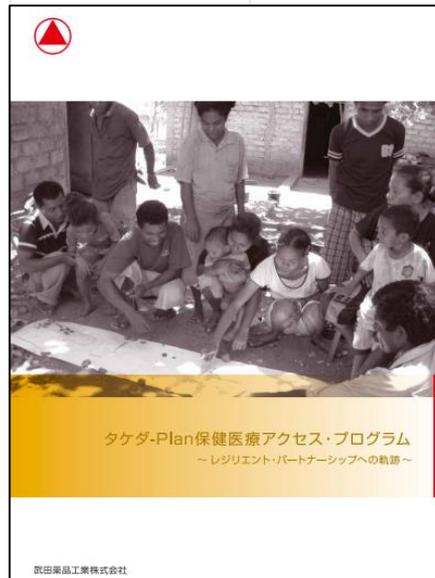
この事業のおかげで、災害多発地域に住んでいる私たちは、災害、とりわけ津波のことを常に意識するようになり、災害が発生した際に、誰が何をすべきかが明確になりました。実際に2012年に大地震があった際、この事業で行ったシミュレーションに沿って対応し、パニックを回避することができました。学校でのスカウト活動や応急手当訓練などを通じた定期的なメンタリング活動も非常に役立っています。わが校のシミュレーション活動 (地震直後に火災が発生したという想定) への取材依頼をフランスのテレビ局から受けたこともあります。

この事業で得た包括的な災害についての知識を活かして、新入生の3日間オリエンテーションで災害発生時の対応について紹介するほか、毎月1回の全校集会で災害をテーマにスピーチする時間を設ける予定です。



「タケダ-Plan 保健医療アクセス・プログラム」の進捗状況(2009年7月～2014年12月)

実施国/概要	インプット	アウトプット	アウトカム	インパクト
インドネシア 屋外での排泄 禁止促進 MDGs※への 対応 目標4、目標7	1,222万円	<ul style="list-style-type: none"> 住民ファシリテーターの育成トレーニング(対象:36村、156人) 導入ワークショップの実施(20村、約1,100人) 屋外排泄ゼロ村のモニタリングフォローアップ(2年目5村、3年目2村、4年目10村) 	<ul style="list-style-type: none"> 対象25村が屋外排泄ゼロ宣言 保健所の下痢患者数が半減した。 自費でのトイレ建設(3,861世帯) 	<ul style="list-style-type: none"> 対象25村のうち、うち、2村が「屋外排泄ゼロ宣言」を達成するための5項目を村の条例に取り入れた。 本活動が成功事例として認識され、ルンバタ県全土、さらに他の県へ普及した。



※ MDGs:ミレニアム開発目標

第三者保証の対象となる記載

https://www.takeda.co.jp/access/common/pdf/takeda-plan_healthcare_access_program_ja.pdf

今年で55回目「赤い羽根共同募金」に協力します

～全国に厚生労働大臣からのメッセージと赤い羽根をお届けします～
～赤い羽根70周年記念ロゴマーク入りの特別塗装機が大空へ～

ANAグループは、今年も「赤い羽根共同募金」のPR、ならびに募金運動に協力いたします。昭和37年より続いている赤い羽根共同募金運動への協力は、今年で55回目を迎えることとなりました。

9月30日（金）、厚生労働大臣よりメッセージ、また赤い羽根共同募金を主催する中央共同募金会会長より赤い羽根をお預かりし、10月1日（土）にANAグループの客室乗務員が全国各地40カ所の知事・市町村長、市町村共同募金委員会会長へ「赤い羽根 空の第一便」としてお届けいたします。

また、赤い羽根共同募金70周年記念ロゴマークの入った特別塗装機20機が10月1日より約3ヵ月間、日本の空を駆けめぐります。

ANAグループでは、充実した国内線ネットワークを活かし、ANAが就航している国内空港カウンターや空港売店「ANA FESTA」に募金箱を設置するほか、ANAグループ社員が街頭募金を行ないます。セレモニーや協力内容の詳細につきましては、別添をご参照ください。

ANAグループは、行動指針ANA's WAY「社会への責任」に基づき、これからも「赤い羽根共同募金」をはじめとした社会貢献活動に積極的に取り組んでまいります。

ANA 全空港カウンター募金運動

【概要】ANAグループが就航している国内全空港において、地上旅客係員が「赤い羽根」を着用して共同募金運動をPRするとともに ANAのロビー内出発カウンター等に募金箱を設置し、募金運動を実施いたします。

【期間】平成28年10月1日（土）～10月16日（日）

【場所】利尻・稚内・オホーツク紋別・女満別・旭川・根室中標津・釧路・千歳・函館・青森・大館能代・秋田・庄内・仙台・福島・成田・羽田・八丈島・新潟・富山・小松・能登・静岡・中部・伊丹・関西・神戸・岡山・広島・岩国・山口宇部・鳥取・米子・石見・高松・徳島・松山・高知・福岡・対馬・五島福江・佐賀・大分・熊本・長崎・宮崎・鹿児島・沖縄・宮古・石垣（50空港）

空港売店「ANA FESTA」募金運動

【概要】全日空商事が運営している国内空港34ヶ所の売店「ANA FESTA」に募金箱を設置し、募金運動を実施いたします。

【期間】平成28年10月1日（土）～10月16日（日）

【場所】稚内・旭川・釧路・千歳・函館・秋田・大館能代・庄内・仙台・成田・羽田・富山・小松・中部・伊丹・関西・神戸・岡山・広島・鳥取・米子・山口宇部・高松・松山・高知・福岡・佐賀・大分・熊本・長崎・宮崎・鹿児島・沖縄・石垣（34空港）



おかげさまで70周年



▲2015年度中央伝達式の様子

ご清聴ありがとうございました。